

学習の目的	IT関連の最新の技術動向と事例を学び、DXへの流れを把握する。	
学習のGoal	<ol style="list-style-type: none"> 1. DXとは何か、IT化との違いを歴史的な流れから学ぶ 2. AIやIoTといった最新の技術動向を把握してデジタル化の波を意識する 3. DXの最新キーワードからデジタル化と自動化の道筋を思考する 	対象層 ・ITやDXの基本から最新技術動向までを効率よく学びたい方

■ カリキュラム

時間	内容
13:00	オリエンテーション 1. IT化の歴史 コンピュータとITの歴史 基礎的なITリテラシー ITとビジネスとの関係性 演習 (ブレイクアウト) 2. 最新IT技術を学ぶ ・AI、RPA、IoT ・オンプレミスとクラウドサービス ・ノーコードツール ・オンラインツール 3. DXとは ・DXとは何か ・デジタル化と自動化 ・IT化との違い 4. DX最新キーワード ・シェアリング・ギグ・エコノミー ・D2C、オムニチャネル、O2O、OMO ・ブロックチェーン 演習 (ブレイクアウト)
17:00	講義の間に、身近な生活・仕事とIT&DXの関係を考える 演習 を入れることで、学習内容への理解を深め、DX推進の必要性を 自分ごと と化します。

※カリキュラム内容は一部変更になる場合があります

■ カリキュラムの特徴

- 1. 基礎から最新技術動向までを早わかり**
 初心者の方でも、最新の技術動向とDXの基本を把握しながら、IT化との違いやDXへの道筋まで半日間で早わかりできます。
- 2. オンライン演習で、DXの必要性や有用性を知る**
 身近な生活や仕事との、IT・DXの接点を考える演習で、DX推進の必要性や有用性を深く理解します。

■ AIと機械学習の違い

人工知能のレベル

白物家電がレベル1とすると

レベル1: ルールベース: 指示されたことを自ら考えて実行する
 外の世界を認識することによって動きを決定する。多岐にわたるルールをあらかじめ用意しておく。ルールが適用される場合は、あらかじめ決められたルールに従って、あらかじめ決められた手順に従って動作する。例: 洗濯機、冷蔵庫、エアコン、テレビなど。

レベル2: 機械学習: 着眼点は人間が教え、対応パターンを自動的に学習する
 人間のデータから対応パターンを自動的に学習する。大量のデータから対応パターンを自動的に学習する。例: 音声認識、画像認識、推薦システムなど。

レベル3: 深層学習: 着眼点を人学習に使う
 人間の学習に似せた学習方法。大量のデータから対応パターンを自動的に学習する。例: 音声認識、画像認識、推薦システムなど。

レベル4: 自律学習: 着眼点を人学習に使う
 人間の学習に似せた学習方法。大量のデータから対応パターンを自動的に学習する。例: 音声認識、画像認識、推薦システムなど。

■ DXとは何か

日本のDXの定義

DX=デジタルトランスフォーメーション

● 日本発DX

価値協創型 = 多様な主体の協創による生活者の価値の実現

生活者価値 (CX/UX)

協創

既存の部門や業種の垣根をなくし、生活者価値を共有する同業種・異業種、スタートアップ、アカデミア、政府・自治体などさまざまな主体が有機的かつ自律的に協創を進めるモデル

従来の企業連携・業務提携にとどまるのではなく、生活者価値の実現を目的とした、より根本的で有機的な連携を推進

生活者の意思に基づき、多様な主体間での有機的なデータ連携を進める

経団連 Digital Transformation (DX) ~価値の協創で未来をひらく~ (2020年5月) より引用

※教材イメージ。内容やデザインは変更の可能性があります。

■ 開催概要

カリキュラム	半日 (13:00-17:00) ※12:45~接続テスト
参加料 (税込)	27,500円 (税込/1名)
教材	PDFファイルをメールで提供

★開催日・申込URL <https://www.jmam.co.jp/hrm/course/onlinebizcall/dhoa.html>